

移動等円滑化評価会議東北分科会 意見交換会(宮城県)の開催について

意見交換会(宮城県)の概要及びご意見等について

1. 意見交換会の概要

- ・移動等円滑化評価会議東北分科会でご意見をいただいていた、「各県ごとの意見交換会」について、宮城県の意見交換会を令和5年11月28日に開催した。
- ・宮城県内の障害者団体等の委員の他、バリアフリープロモーターにもご参加いただき、移動等円滑化に関する取組内容やご意見についてご報告いただいた。

2. 意見交換会での主な取組内容・ご意見等①

・移動円滑化に関して、知的障害児・者の保護者の団体である宮城県手をつなぐ育成会では、本人が移動する際にチケット購入等の場面で、そのやり方が理解できず戸惑うことが想定される。その際に、「困った場合の対処方法」についてわかりやすい表示がなされていることで、安心して移動できる環境となると思われる。現在も各所にそのための表示が設置されているが、まだ不足している所については整備をお願いしたい。また本会では、以前報告したように、一般の方々に対して知的障害の実情や困り感といったことについての理解促進のために「障害理解啓発活動」を進めている。(永野 幸一委員)

・仙台市内では、公共施設の一部を新しく建築することや大規模改修が行われる過程にある。仙台市交通局からは、地下鉄南北線の車両更新の際の車両点検について声をかけていただいた。公共施設の建築や大規模改修、交通システムについて、当事者の視点でバリアフリーの点検を行っていただきたい。障害があると不便なこと・困ることはあるが、新築であれば設計段階から関わることによって、誰もが使いやすい公共の建物や公共のシステムになると考えている。2ヶ月程前に仙台市内の公共施設について、改修後にご案内いただいたのだが、完成する前の段階からご案内いただければ、障害のある私たちの視点からより使いやすいもの、高齢社会の中で誰でも使いやすい建物や公共システムになると思い申し上げた。(阿部 一彦委員)

・バスについてはバリアフリー基準によって、バリアフリー対応車の導入が進んでいるが、年々路線が減っているという状況がある。宮城県は特に車社会で自家用車が中心となっている影響もあって、公共交通機関が減っていくという状況が今後も想定され、私たちにとって貴重な移動手段がなくなってしまうという状況であるため、それについて地域としてもう少し議論が必要ではないかと思っている。(及川 智委員)

2. 意見交換会での主な取組内容・ご意見等②

・知的障害者に特化した話となるが、交通機関を利用する際に直面する障壁を軽減するため、考慮すべき重要な要素について考えていきたい。

1つ目が情報提供の利用しやすさ。時刻表や乗り継ぎ案内、運賃案内等を分かりやすく表示する工夫が必要。知的障害者にとっては一般の時刻表・運賃案内が理解できないという場面があるため、もう一工夫が必要と考えている。視覚的な表現の工夫や音声案内の工夫などがあげられる。

2つ目が施設の利用しやすさ。駅構内やバス停、車内の掲示板などの工夫が考えられる。知的障害者にとってわかりやすい表現で表示することが最も適切と考えている。

3つ目は交通機関の職員に対する研修。知的障害者への対応方法として、接することが怖い・接し方がわからないといった方がいると思うため、そういった方々への研修や、直接障害のある方とふれあっていただく場面をつくる事が必要。コミュニケーションスキルの研修等の機会をとらえて実施する必要があると考えている。

4つ目は安全とセキュリティの面で、車両内での事故・事件の際の誘導の仕方・指示の出し方に工夫が必要。大きな災害があった際にどう行動したらいいかわからない方々に対する誘導の仕方・指示の出し方・掲示の仕方も検討しなければならない課題。障害があってもなくてもすべての人が社会に参加できるようにすることが最も大切と考えている。(バリアフリープロモーター 遠藤 邦弘様)

・過去に仙台市内の主要駅の基本構想の作成に関わった経験があるが、仙台市の場合は駅を中心として周辺のまち歩きをし、市民参加型のワークショップを通して基本構想を作ったという経験がある。それは地域住民の駅に対する意識や周辺に対する意識が非常に深まり地元に対する意識も深まるということがあるため、各地域で基本構想の作成を進めていただきたいと思っている。単純に駅設備のバリアフリーだけではない効果も大きいと考えている。(及川 智委員)

・当事者の声を大切にしていこうという姿勢はよく、それを実践していただきたいが、本日の委員の声でも一部の意見であり、様々な方々の交通に関する困りごとや日常生活での困りごとを常に拾うような仕組みがあるといいと感じた。そのような声を拾う仕組みを作ることと、声をストックし共有することで、施設の整備や交通の計画の際に参考になると思う。様々な声を一部の人たちだけで共有するのではなく、多くの人に知ってもらい、社会の中に課題としてあるということを見える形で共有・蓄積していくことが大事。(石井 敏委員)

2. 意見交換会での主な取組内容・ご意見等③

・全国の整備の目標について、進捗状況を見ると着実に進んでいるところと進んでいないところがよく分かる。当事者の立場や視点から考えると、大きな駅や拠点が整備の指標になっているが、そういったところが整備されると多くの方々に跳ね返って改善につながる。一方で東北地方は宮城県も含めて小さな駅や、指標に含まれていないところも多く、そのようなところにも、高齢者や障害者がいたり、数は少ないかもしれないが困っている人がいる。そのような全国的な数値の目標と整備の中では対象になってこないところを。地域固有の課題として、東北・宮城は考えていけないといけなし、大都市や首都圏とは違うやり方や考え方のもとで対応・対策をとっていけないといけなしと思う。どうやるかは非常に難しいが、当事者目線を忘れず進める事が大事だと思っている。(石井 敏委員)

・最近宮城県・仙台市内も外国人が多く、駅やバスを利用した移動は大変だろうと思う場面がある。障害者はもちろん、色々外国人の方も言葉の問題等で移動に支障をきたしていると思うため、そのような点でも改善していく取組や仕組みも考えていくことで、宮城県、日本に対する好印象につながって、さらに人を呼ぶことになると思う。(石井 敏委員)

・本日会議は宮城県に特化した課題ということであり、宮城県で特化するのであれば東日本大震災を経験した私たちが一番忘れてはいけないのは「命をどう守るか」ということ。これは2011年、2012年の会議の際に盛んに言われていた。地震での死亡率について障害者は健常者の2倍というデータもあり、逃げ遅れや、津波では上層階に運べなくて亡くなった高齢者もたくさんいた。車椅子の人、耳が聞こえない人、目の不自由な人等に対して、命をどう守るかという原点にもう一回立ち返り、宮城県独自で一番力を入れなければいけないことを考えた方がいいと思う。(丸山 あずさ委員)

・当事者目線という事が何度も出ているが、当事者は全員であり、障害別の当事者といった見方は狭いと思う。全員が歳をとれば足腰が弱り、耳が遠くなり、目はかすみ、病気で失明したり、認知機能が衰えて幻覚・妄想がでたり、誰でも障害者になるという視点を忘れてはいけない。今年1年の動きとしては、警察署に相談し、自分が住んでいる家の近くに音声の信号機を設置していただいた。楽天スタジアムに対して補助犬が使用できるトイレの要望をしたところ、可動式ではあるものの、連絡があれば盲導犬ユーザー等が野球観戦に来た際にトイレを準備していただけることとなった。新千歳空港も補助犬トイレが設置された。自分ができることをとにかくまずやってみる、役職や立場に関係なくやってみたらいいのではないかと思う。(丸山 あずさ委員)